

2004年10月期業績について

1. 業績報告

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業の業績改善が進むとともに、個人消費・設備投資も徐々に増加するなど景気は回復傾向で推移いたしました。しかしながら、原油価格の高騰や鋼材の値上がり、為替の変動等、不安材料をかかえており、先行きは予断を許さない状況にあるものと思われま

す。このような状況のもと、当社グループは、生産効率の向上を図るなど原価低減に積極的に取り組むとともに、新製品の開発や高品質の製品作りに努め、市場競争力を強化してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は13,762百万円（前期比13.0%増）となりました。また利益面では、経常利益1,401百万円（前期比49.9%増）、当期純利益825百万円（前期比281.5%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

猟銃事業

主力の米国市場が好調で、散弾銃におきましては今期投入した上下二連銃の新モデル CYNERGY が全米ライフル協会の2004年度ショットガン・オブ・ザ・イヤーに選出されるなど市場での評価も高く、これら相乗効果も相まって受注増となりました。またライフル銃では装弾メーカーと共同で新しい弾に対応した新製品を他社に先駆けて開発し、順次各機種に採用することにより好調な受注が続いております。以上の結果、売上高は7,013百万円（前期比10.4%増）、営業利益703百万円（前期比12.6%増）となりました。

工作機械事業

深孔加工用ガンドリルマシンを主力とする工作機械事業は、自動車・金型関連業界を中心とする設備投資が順調に推移しており、機械部門、ツール部門、加工部門とも増収増益となりました。なかでも薄型TVの需要増により孔あけ加工の受注が急増した加工部門の売上高は、前期比40.5%の増加となりました。また、ツール部門も前期比14.1%増と順調に売上が増加し、設備投資の影響が少ないツールおよび加工部門の充実により、安定した収益を維持できる体制が整ってまいりました。その結果、売上高は3,271百万円（前期比16.9%増）、営業利益698百万円（前期比70.9%増）となりました。

自動車関連事業

自動車業界におきましては、国内販売が前期を下回ったものの、ウッド調ステアリングハンドルとシフトノブ搭載車種の販売台数増により受注が増加し、主力の純木製ステアリングハンドルの出荷減少分を十分にカバーいたしました。その結果、売上高は3,437百万円（前期比15.2%増）、営業利益27百万円（前期比276.8%増）となりました。

その他事業

含浸木材を使用したミロモックル事業は、公共投資の低迷から厳しい環境が続いております。売上高は49百万円（前期比9.9%増）、営業損失は2百万円となりました。

2. 次期の見通し

価格競争が年々激化される中、原価低減、付加価値向上が大きな課題であります。

猟銃事業におきましては、販売・技術提携先であるブローニング社との共同開発の推進等、製品開発力の強化を最重要課題として取り組み、受注の維持・拡大を図ってまいります。散弾銃の主力製品である上下二連銃の新製品 CYNERGY の小番径モデルや、ライフル銃の主力製品であるボルトアクションライフルの次期モデルの開発を進めるとともに、グループ一体となった原価低減活動を推進し、事業基盤の強化を図り、猟銃製造業での世界一を目指し努力してまいります。

一方工作機械事業は、販売促進に力を入れるとともに、安定した受注が見込めるツール部門の能力増

強を軸に、現在の高水準の業績を維持するとともに、将来に向けた新市場の開拓、新製品の開発を進めてまいります。

純木製ステアリングハンドルを主とした自動車関連事業は引き続き好調に推移するものと予想されますが、価格競争力が前提であることはいうまでもありません。前期建設された新工場での効率的な生産と、材料および手直し等歩留まり向上により、高収益体質への転換を図ってまいります。また新製品・新工法の研究開発に力を入れ、業容の拡大に努めてまいります。

当社といたしましては、このような景況のもと、資本効率を追求した経営体制の確立とコスト構造の改革を実施し、持株会社としてグループ効率の向上に努力してまいり所存であります。